

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900012
法人名	株式会社西日本介護サービス
事業所名	グループホームウィズライフ奈良屋
所在地	福岡県福岡市博多区奈良屋町8-19
自己評価作成日	平成24年9月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成24年10月16日	評価結果確定日	平成24年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員として、山笠の炊き出しや公民館行事に積極的に参加している。また、ボランティアや実習生の受け入れを通して地域に開かれたホームを目指している。 ・ご入居者が安心して暮らせるよう、医療連携室と連携を図り、健康管理・栄養管理・機能訓練に力を入れている。 ・併設事業所であるデイサービスのリハビリやレクリエーションに参加したり、大浴場を利用したりする等、柔軟な対応に努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは都会にありながらも、静かで落ち着いた環境にある。地域とも、山笠をはじめ、いろいろな行事を通してつながりを深く築いている。創設者の「地域と共に、全職員の幸福を追求し社会貢献する」という考えの通り、職員は笑顔で生き生きと仕事をし、常に利用者のためにどうするべきかを考えて行動している。現在は食事の栄養面に力をいれようとして検討している。1階にあるデイサービスと協力し、リハビリも強化している。また、医療機関との連携もうまくできており、往診や訪問看護の協力を受け、看取りを行った経験もある。建物内には行事の際の写真がたくさん飾られており、写っている利用者はニコニコと笑顔である。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は職員の入社時に理念の説明を行い、研修やミーティング時に、全員で理念の唱和をしている。 ・理念を事業所に掲示している。 	創設者の思いが込められた理念は壁に掲げられており、入社時のオリエンテーションの時に説明している。その後も日ごろのミーティングなどで唱和し、職員一人ひとりに浸透している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・山笠や運動会など地域の行事に参加させていただいている。また、近隣の美容室を利用している。 	山笠の盛んな地域が地元の利用者が多く、祭りの時期になるとわくわくとした雰囲気になる。早朝からの祭りであるが、スタッフが同行し見物に行っている。また、小学校の運動会に招待されたり、公民館のふれあいサロンに参加したりと、地域と深い関わりをもっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月かわら版をご入居者と一緒に地域の人々へ配布している。 ・運営推進会議にて勉強会を実施している。 		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・今年から栄養管理向上の為、勉強会を開催し試食会を実施している旨を報告。 ・助言や提案を頂いた際は、全職員で改善に向け取り組んでいる。 	運営推進会議は二ヶ月に一度、自治会、民生委員、公民館、他事業所、地域包括支援センター、社会福祉協議会、利用者、家族が集まって行っており、記録もきちんと整理されている。食事の栄養面改善のために試食を行うなど内容のある会議となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に民生委員、地域包括支援センターの職員を招き、連携を深めている。 	地域のいきいきセンターや博多区役所、地域包括支援センターにホームの新聞を置いている。また、市からの依頼で一階のデイルームで介護予防教室を行っており、ホームのスタッフも手伝っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・月例ミーティング時に、抑制廃止委員会にて確認している。 ・玄関はオートロックになっているがご入居者が外出を希望される際は付き添い、外出できる体制を整えている。 	ミーティング時に禁止事項を声に出して読み上げ、身体拘束をしないケアについて徹底している。建物入り口には、鍵をかけているが、外に出たい素振りのみえる利用者にはスタッフが付き添って外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・内部研修、勉強会を実施している。 ・リスクマネジメント委員会を設置し、月例ミーティング時に全職員で確認している。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修や内部研修、勉強会を実施している。また、契約時に利用者及び家族に資料を配布し、制度の説明を行っている。現在、成年後見制度を活用中である。	スタッフ全員が理解するように、外部研修を交代で受けている。法人内の学習も、勤務年数に合わせスケジュールを立てて行うなど力を入れており、実際に成年後見人制度を利用している方もいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・事前に見学して頂き、相談、説明の場を設けている。 ・体験入居を活用して頂き、再度説明した上で理解と納得を得るようにしている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時やサービス担当者会議、運営推進会議にてご意見を頂き、改善策を検討している。また、家族会の開催やケア担当者の評価アンケートも実施している。	利用者を担当制にしており、半年に一度は家族を交えた担当者会議を開催して、十分に話を聞いている。その他にも意見を聞く機会を設け、家族の意見をくみ上げている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月例ミーティングや日々の申し送りにて意見や提案を聞いている。 ・定期的に職員の個別面談を実施し、管理者が直接話を聴く機会を設けている。	備品の購入やホームでの食事についてなど、スタッフの意見は運営に反映されている。またミーティングや上司との面談などで意見を聞く機会も多く設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・キャリアラダ、自己評定を基に作成した自己目標に対し、支援及び育成を行っている。また年1回、人事考課を行い、向上心をもって働けるよう取り組んでいる。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	・募集、採用にあたって制限は無く、採用時は1日職場体験をしてもらいホームの様子を把握できるようにしている。 ・職員の特性を業務や行事に活かしている。また、毎月休日の希望を取り、働きやすい環境作り取り組んでいる。	スタッフは男女20～60歳代と幅広い年代があり、業務に携わっている。希望者は入職前、一日ボランティア体験をした上で就職を決めることができる。また、資格取得のために、休みを優先したり、勉強会を開くなどのバックアップ体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修や内部研修に参加し、ご入居者の尊厳について確認している。 ホームでは随時マナーチェックを実施しており、その都度指導している。 	人権に関する資料を配布したり、スタッフに講演の案内をしている。ホーム内でのマナーの向上のためにチェックする仕組みづくりをしている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 人事考課にて全職員の現状を把握し、社内全体の定期研修制度を実施している。また、ホーム内にて委員会を中心に毎月研修、勉強会を実施しており、外部研修にも積極的に参加している。 		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修にて他の事業所と交流の機会をもち、ネットワークの構築に努めている。 社内で月1回、グループホーム課会議を開催し連携を強化している。 		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> 入居相談時にご本人と面会を行いご要望を伺っている。体験入居中にご本人の話を聞く機会を設けており、本契約までに信頼関係が少しでも多く構築できるよう努めている。 		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ご家族と話をする場を設け、ホームの理念・指針をきちんとお伝えする事で、信頼頂けるように努めている。 入居待機者には、定期的に手紙、電話連絡等行い不安解消に努めている。 		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 入居相談の際に、必要としている支援を見極め、様々なサービスのご提案を行っている。また、ホーム内を見学し、安心、納得して頂けるような支援をしている。 		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ご本人の生活歴を把握し、得意なことを活かし、支え合いながら喜怒哀楽を共有する事で、理念に掲げる新しい家族として生活を共にする関係作りに努めている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	・面会時やサービス担当者会議の際に 近況報告とご意見をいただくことで情 報を共有し、共にご本人を支えていく 関係を築いている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの場所へ外出レクに出かけた り、馴染みの美容室や理髪店に出か け、関係が途切れないよう支援に努め ている。	山笠祭りへの参加をはじめ、地域の行事に は積極的に参加している。入居前からの理 美容室へお連れしたり、自宅周辺の散歩な ども出かけている。友人の来訪も見ら れ、馴染みの人や場との関係が途切れない ように支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	日々の生活において、関係性を把握 し、食事の準備や外出、ホームのイベ ント等を通して、お互いが支え合える ような支援に努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・行事の際に案内をし、参加して頂け るようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	・日頃から、関わりの中でアセスメントを とり、想いや希望を取り入れたケアの実践 につながるよう努めている。また、意思疎 通が困難な方には日頃からのアセスメント と、ご家族から情報を得ている。	利用者が散歩や調理など、日常生活の 中で希望することがあればすぐに対応 し、利用者の思いや意向の把握に努め ている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	・ご家族より入居時に生活歴や経緯を 伺い、入居後は直接ケアに関わる中で 得た情報を記録に残し、情報の共有に 努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	・日々の情報を記録に残し、申し送り ノートを活用しながら情報の共有に努 めている。また、アセスメントを通し てのケアのポイント等も共有できるよ う努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々の関わりからアセスメントをとり、ケアカンファレンスやサービス担当者会議にて介護計画を作成している。	介護計画は三ヶ月に一度担当者をはじめとするスタッフで検討し、半年に一度、家族や医療関係者の意見も取り入れて作成している。アセスメント表には新たに得た情報を青で追加記入していくなど、情報を共有するシステムができています。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を記録に残し、気づき等を申し送りノートにて情報共有に努めている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご入居者一人ひとりの状態に応じ、食事や入浴時間の調整を行っている。また、併設デイサービスのレクや浴室を利用する等柔軟な対応に努めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・山笠や運動会など地域の行事に参加させていただいている。また、運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し連携を強化している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人又はご家族の希望によりかかりつけ医が決まっている。 ・月2回の協力医による往診で体調の変化に迅速に対応できる体制を整えている。	ホームと連携している病院から月二回の往診がある。その他の病院をかかりつけ医としている方は、家族の付き添いで受診されている。その場合も、日常の様子を書面にて医師に伝えている。眼科、皮膚科などの受診にはスタッフが同行して対応している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護ステーションに日頃の健康管理や随時状況を報告し、助言を頂いている。 ・併設デイサービスの看護師との連携も図っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院した際は、職員間で面会に行き状況把握に努めている。また、病院関係者と連携を図ることで早期退院できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時及び介護計画の更新時には終末期の意向を確認している。また、重度化指針に基づいてご家族へ説明、同意を得ている。	終末期の希望については契約時から確認し、利用者の状態にあわせてその都度意向の変化を確認している。医師や訪問看護の協力の下、ホームで看取りを行ったこともあり、希望があれば今後も行っていく姿勢がある。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時対応マニュアルを作成し、職員間で確認している。 ・ホーム内での研修にて、急変時や事故発生時の対応を学び、実践に活かしている。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の火災時の避難訓練を実施している他、地震、風水害の訓練も実施している。	年二回の避難訓練が行われており、その様子は記録に残されている。毎回消防署に立ち会ってもらい、地元の消防団と合同で行ったこともある。スタッフは一次避難場所、二次避難場所を把握している。現在食料などの備蓄を検討している。	備蓄に関しては、最近の自然災害の状況も鑑みて出来るだけ早く整えることが望まれる。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人の尊厳を守り、プライバシーに配慮している。 ・個人情報については、研修、個人記録を事務所で一括管理している。	洋式トイレでの介助時にひざ掛けを利用したり、利用者の真正面で着脱衣の手伝いを行うことを避けるなど、細かい配慮までできている。食事の際にエプロンをしている利用者が数人おられる。	エプロンをして食事をしている利用者については、今後その必要性を検討しながら、外せるようにすることを期待する。
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日々の生活の中で、ご入居者の声に耳を傾け、意思表示が困難な方には、表情を読み取る等、表現できる環境を整えるよう努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご希望に沿って、一人ひとりのペースを大切にした支援に努めている。 ・外出レクや休息など、その時々に合わせて対応を心がけている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎朝の整容を欠かさず行い、個々の生活習慣に合わせて、化粧やおしゃれの支援に努めている。また、自らおしゃれされない方に対しては、化粧やマニキュアを行い、関心を持てるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・台拭きや炒め物等の家事のお手伝いをして頂き、楽しみながら料理に参加していただいている。食事中は、こまめな声かけや音楽など楽しく食事ができる環境作りを行っている。	希望する数名の利用者が食事の準備や後片付けを手伝っている。食事は栄養面が考えられたもので味も良く、見た目も美しく盛り付けられている。スタッフも同じテーブルで同じメニューを食べており、家庭的な食事風景が見られる。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎月他事業所と共に食事、栄養の勉強会を行っている。 ・食事係を配置し、献立や食材を定期的に見直し、良質な食事の提供に努めている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・ご入居者の状態に合わせて、毎食後口腔ケアを実施して清潔に努めている。また、定期的に義歯洗浄剤を使用し清潔に努めている。ニーズに応じて歯科医との連携を図っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・日々の関わりや、排泄表を基に排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながら自力での排泄を支援している。トイレでの自然排泄を心がけている。	表に排泄の回数や食事量、飲水量の記録が細かく書き込まれており、一人ひとりの排泄パターンが一目瞭然である。入居後オムツから紙パンツになった方もおり、排泄の自立に向けた取り組みが見られる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄表にて排泄状況の把握を行い、水分や手作り寒天ゼリー、オリゴ糖、プルーン等を提供している。 ・日々の体操や腹部マッサージでぜん動運動を促すよう努めている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	・個々の体調に合わせて、入浴、清拭を組み合わせながら清潔保持に努めている。また、併設デイサービスの大浴場を週1回利用する事で普段とは違う環境で入浴を楽しんで頂いている。	入浴は曜日や時間で決めておらず、個別に行っている。夜間に希望があった場合も、20時までなら対応する準備がある。拒否のある利用者もスタッフが時間をかけ誘導している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中の活動性を向上する事で夜間良眠につながるよう努めている。夜間眠れないご入居者には、ホットミルクを提供し、安眠につながるサービス提供にも心がけている。必要に応じて日中の休息もいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人ファイルに薬の詳細を綴り、全職員が確認できるようにしている。 ・与薬時は必ず複数の職員で名前、日付、時間の確認を行い、服薬後の空袋にて再確認している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ご入居者一人ひとりの個性を活かし、食事、掃除、洗濯等の支援を行っている。 ・趣味や特技を活かせる活動を介護計画にいれ、実施できるよう努めている。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・日頃の散歩や買い物その他、地域行事や誕生日等、普段行けない場所へも、ご家族や地域の人たちの協力を得ながら実施している。	散歩や近くへの買い物、外食は頻繁に行っている。山笠祭りへは車椅子の方も見物にお連れしている。遠方への外出も多く、ホーム内にはその時の写真が壁いっぱい飾ってある。どの写真も利用者の笑顔がいっぱいである。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金の所持について現在希望される方はおらず、買い物等必要な時にはホームの立替えにて購入される。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話をすることを介護計画に入れたり、年賀状などを書いて頂く時間を作り支援している。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングに季節の花を飾り、テーブルソファの位置はご入居者が安全でゆっくり過ごせる環境作りに努めている。温度は、リビングの数か所に温湿度計を置いて管理している。	室内は折り紙や写真で楽しく飾り付けられている。季節の花が飾られ、明るさ、室温や湿度が心地よくなるように調整している。都会の中とは思えないほど騒音がなく、やさしい音楽が流れている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビング内数か所にソファを設置し、仲の良いご入居者同士で話す等、くつろげる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には馴染みの家具やご家族の写真を飾り、居心地の良い空間を提供できるよう努めている。また、趣味の道具等も置くことで、今までと変わらない暮らしの支援に努めている。	家具の配置は入居前の様子を聞き取って、ベッドのどちら側から起きていたかまで同じにするなど細かい配慮をしている。位牌や馴染みの釣り道具など、その方にとって大事なものが部屋に持ち込まれ、安心して過ごせる空間となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室前に表札や写真を飾り、ご自分の部屋だとわかるようにしている。 ・各所に手すりや椅子を設置し、自立した生活ができるようにしている。		